

志の実現に向けて 34

はじめに

日に日に暖かくなっています。春は近づいています。先日、次世代大型基幹ロケットの「H3ロケット」2号機が打ち上げられました。久しぶりに未来につながる明るいニュースに触れたような気がします。

さて、今月25日（日）から国公立大学二次（個別）試験が始まります。今年度入試については、共通テストが始まる前は難関大学志向が強いと予想されていましたが、出願状況を見ると、難関大学に続くレベルの大学への出願が多かったようです。試験まで残り少なくなりましたが、現役生は最後まで伸びると言われています。あらためて、気持ちを引き締めて、学習に取り組んでもらいたいと思っています。

「文章により自らの思いや考えを的確に伝えること」について

受験指導に関わり現代的な課題の一つに、「文章により自らの思いや考えを的確に伝えること」があげられると思っています。

大学によっては、志望理由書や小論文等を課すケースがありますが、生徒たちは苦戦しているようです。メールやSNS等で自らの思いや考えを示す時代ですが、短文であったり、句読点を打たないことが一般になっているようです。

高校生新聞オンラインの2月16日（金）の高校生記者コラム記事に、『「伝わる文章」は生活でも入試でも強み 苦手な人に試してほしい3つのコツ』が以下のように紹介されていました。

■ 目的を明確に

1つ目は、書き始める前に「誰に」「どうして」伝えたいのかをはっきりさせることです。例えば、入試のときに提出する自己推薦書は「自分のことを全く知らない大学の先生に」「自分の長所を知ってもらって『ぜひうちの大学に来てほしい』と思ってもらうため」に書きます。日記ならば、「未来の自分に」「現在の自分の気持ちを思い出してもらうため」に書きます。

ここで一度立ち止まって考えることが、文章をスムーズに書くポイントです。伝える相手と目的を明確にしたら、文章の輪郭をざっと決めるイメージで、書く内容を箇条書きにしていきます。自分が伝えたいことを軸に、文章の構成も一緒に考えるのがコツです。

論文や自己推薦書などかしまった文章なら最も主張したい結論から、作文など感情や共感を大切にする文章なら具体的なエピソードから書くのがおすすめです。

■ 一文は短く

2つ目は、一文を短くして文法の間違いを徹底的になくすことです。始めは「一文につき伝えたいことはひとつ」を意識して書いていきます。文章が細切れになり過ぎていても、次のステップの推敲（すいこう）で読みやすく直すので問題ありません。

一文を短くすることで、主語と述語が離れてしまい、どこどこが対応しているか分からなくなることが減ります。文法の間違いをなくすうえでもおすすめの方法です。

時間との勝負になる小論文の試験では、この「一文を短く書く癖」がとても有効です。後からの修正もしやすくなりますし、試験では美しい文章ではなく、論の展開がしっかりした正確で分かりやすい文章が求められるので、推敲に割ける時間が減っても、最低限の伝えたいことは伝わる文章になります。

■ 他人の文章を直すつもりで推敲

最後は、客観的に推敲することです。文章の全体を見渡して、短過ぎる文を接続詞でつなげたり、話の展開が破綻していないか、話を横道にそらす不自然な一文がないかを確認したりしていきます。

ポイントは、他人が書いた文章を直すような気持ちで推敲すること。時間に余裕がある課題なら、書いてから1日ほど時間を置くのがおすすめです。制限時間のある試験などでは、目をつぶって深呼吸するのが効果的です。それだけで、少し冷静な気持ちになれます。客観的な視点で文章を直したら、最後にもう一度誤字脱字をチェックして、完成です。

■ 「何を伝えたいか」を考えて

文章を書くことは、あくまで手段です。大切なのは、その文章を読んだ後、読んだ人にどう感じてほしいかが問われます。

「令和6年度東京大学学校推薦型選抜」について

2月13日（火）に東京大学は、「令和6年度東京大学学校推薦型選抜」の合格者を発表しました。

それによると、約100名の募集に対し、志願者数256名、第一次選考合格者174名、最終的な合格者は91名になりました。男女別の内訳は、男子49名、女子42名です。出身高校地域別の内訳は、東京34名、東京を除く関東16名、その他の地域41名です。

■ 出身高校地域別合格者（人）

| 出身高校地域別 | 東京 | 関東（東京除く）※ | その他の地域 | 合計 |
|---------|----|-----------|--------|----|
| 2024年度 | 34 | 16 | 41 | 91 |
| 2023年度 | 27 | 14 | 47 | 88 |
| 2022年度 | 24 | 18 | 46 | 88 |
| 2021年度 | 26 | 16 | 50 | 92 |
| 2020年度 | 20 | 11 | 42 | 73 |
| 2019年度 | 13 | 16 | 37 | 66 |
| 2018年度 | 16 | 9 | 44 | 69 |

■ 男女別合格者（人）

| 男女別 | 男 | 女 | 合計 |
|--------|----|----|----|
| 2024年度 | 49 | 42 | 91 |
| 2023年度 | 53 | 35 | 88 |
| 2022年度 | 50 | 38 | 88 |
| 2021年度 | 50 | 42 | 92 |
| 2020年度 | 40 | 33 | 73 |
| 2019年度 | 38 | 28 | 66 |
| 2018年度 | 40 | 29 | 69 |

※ 関東（東京除く）：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県

■ 学部別合格者（人）

| | 募集人員 | 志願者数 | 第一次選考合格者数 | 2024年度合格者数 | 男女内訳 | | 2023年度合格者数 |
|------------|--------|------|-----------|------------|------|----|------------|
| | | | | | 男 | 女 | |
| 法学部 | 10人程度 | 25 | 16 | 13 | 4 | 9 | 8 |
| 経済学部 | 10人程度 | 17 | 15 | 9 | 5 | 4 | 7 |
| 文学部 | 10人程度 | 17 | 12 | 7 | 2 | 5 | 8 |
| 教育学部 | 5人程度 | 18 | 12 | 5 | 2 | 3 | 4 |
| 教養学部 | 5人程度 | 17 | 10 | 4 | 2 | 2 | 4 |
| 工学部 | 30人程度 | 81 | 62 | 30 | 19 | 11 | 34 |
| 理学部 | 10人程度 | 40 | 22 | 12 | 8 | 4 | 8 |
| 農学部 | 10人程度 | 16 | 10 | 4 | 4 | 0 | 8 |
| 薬学部 | 5人程度 | 6 | 5 | 4 | 1 | 3 | 2 |
| 医学部医学科 | 3人程度 | 16 | 7 | 2 | 1 | 1 | 4 |
| 医学部健康総合科学科 | 2人程度 | 3 | 3 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 計 | 100人程度 | 256 | 174 | 91 | 49 | 42 | 88 |

■ 科類別合格者（人）

| 入学年度 入学科類 | 2024年度 | 2023年度 | 2022年度 | 2021年度 | 2020年度 | 2019年度 | 2018年度 | 2017年度 |
|--------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 文科一類 | 13 | 9 | 9 | 11 | 8 | 11 | 11 | 13 |
| 文科二類 | 10 | 7 | 8 | 10 | 4 | 1 | 4 | 3 |
| 文科三類 | 14 | 15 | 18 | 18 | 15 | 14 | 13 | 10 |
| 理科一類 | 40 | 40 | 36 | 34 | 32 | 29 | 27 | 31 |
| 理科二類 | 12 | 13 | 13 | 16 | 11 | 7 | 12 | 12 |
| 理科三類 | 2 | 4 | 4 | 3 | 3 | 4 | 2 | 2 |
| 計 (内数：女子) | 91 (42) | 88 (35) | 88 (38) | 92 (42) | 73 (28) | 66 (28) | 69 (29) | 71 (27) |

なお、当日、会見とともに質疑応答が行われています。その中で、「多様な学生の確保は学校推薦型選抜の重要な目標。女子学生や地方出身学生の確保についての成果」についての質問に対して、東京大学は以下のように回答しています。

女子学生や地方出身学生の確保については、学校推薦型選抜では一般選抜と比べ割合が高い傾向にある。今年度の学校推薦型選抜合格者では、女子割合は42.6%、「その他の地域」割合は45.1%となった。女子割合は例年と比べても高めの数値、「その他の地域」割合は少し低めの数値であるが、単年度ごとに一喜一憂するのではなく、マクロな視点で今後も注視していきたい。繰り返しになるが学校推薦型選抜の目的は学生の多様性の確保という点にある。これを促進する、という観点は学内でも検討されているが、現時点でお知らせできるものはない。

私もかつ東京大学学校推薦型選抜に受験生を指導したことがあります。出願利用書や自己申告書の作成は決して容易なものではありませんが、本校からも是非、出願に挑戦してもらいたいと思っています。